

FLORA of KOCHI

No.52

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

探してみよう！ 秋編

マメダオシ（ヒルガオ科）

Cuscuta australis R.Br.

マメダオシはヒルガオ科のつる性の寄生植物です。日本だけでなく、朝鮮半島から中国、東南アジア、オーストラリアまで広く分布します。日本では北海道から沖縄まで分布しますが、環境省のレッドリスト(2020)では絶滅危惧種ⅠA類(CR)になっています。各地で情報不足や絶滅となっており、高知県においては過去に県中央部での報告があるものの、証拠となる標本はなく絶滅(EX)となっています。

マメダオシとアメリカネナシカズラは一見して非常によく似ています。区別点は、雄しべと果実の間にある鱗片の特徴です。アメリカネナシカズラは楕円形で小突起が多数つくのに対し（左下写真）、マメダオシは2裂して小突起も少ないという違いがあります。また、果実期の花冠の反曲によりアメリカネナシカズラ

を区別する方法がありますが、1個体の中でも反曲するものしないものがあり、その特徴で区別するのは注意が必要です。

橙黄色のつるはアメリカネナシカズラ、と決めつけず、萼と花弁をそっと外して中を確認してみてください。やや熟した状態の果実を少し乾かせると、萼と花弁は外しやすくなります。



ハマネナシカズラ



アメリカネナシカズラの鱗片



アメリカネナシカズラ

表 ネナシカズラ属の検索

特徴（検索キー）		開花期	学名・和名
<ul style="list-style-type: none"> 花柱は1個 茎は径1.5mmでふつう紫色の斑点がある 		8-10月	<i>Cuscuta japonica</i> ネナシカズラ
<ul style="list-style-type: none"> 花柱は2個 茎は0.5mm未満 	<ul style="list-style-type: none"> 萼筒の外側に隆起する稜がある(ただし標本になるとやや不明瞭) 	8-12月	<i>C. chinensis</i> ハマネナシカズラ
	<ul style="list-style-type: none"> 花冠裂片は果時に反曲しない 花筒部内側にある鱗片は先が2裂し、縁に小突起が少しある 花冠は萼の長さの2倍 果実の直径は約4mm 	7-10月	<i>C. australis</i> マメダオシ
	<ul style="list-style-type: none"> 花冠裂片は果時に反曲する(ただし同じ個体のなかでも反曲しないものもある) 花筒部内側にある鱗片は楕円形で、縁に小突起が多数ある 花冠筒と萼筒は同じ長さ 果実の直径は約3mm 	8-11月	<i>C. campestris</i> アメリカネナシカズラ

【参考文献】

- 小林史郎. 2009. ネナシカズラ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団(編). 高知県植物誌 pp. 404-405. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.
 藤井伸二. 2013. ハマネナシカズラ(ヒルガオ科)の国内分布. Bunrui 13(2):103-107
 牧野富太郎. 1995. マメダオシ、アメリカネナシカズラ. In: 増補改訂牧野新日本植物図鑑 初版 pp.617. 北隆館. 東京.
 米倉浩司. 2017. ネナシカズラ属. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編). 改訂新版日本の野生植物 5:25-26. 平凡社. 東京.



高知県の植物 ニュース

本号では、牧野富太郎が命名した2種が分布する四万十町興津で、精力的に活動されている伴ノ内さんにキイレツチトリモチの発見の経緯と興津のサダソウについてご報告いただきます。そのほか、ニホンジカの食害調査について報告します。

キイレツチトリモチ (ツチトリモチ科)

Balanophora tobiracola Makino

キイレツチトリモチはツチトリモチ科の多年生草本で、牧野富太郎が1910年に鹿児島県揖宿郡喜入村(現鹿児島市喜入町)で小学校教諭の山本静吾氏により採集された標本をもとに記載した植物です。

高知県に分布するツチトリモチ科の植物はツチトリモチ、ミヤマツチトリモチの2種があり、両種とも雌花しか持ちません。本種は雄花を持ち、若い花茎では白い雄花がイボの様に見えます。雌花は担根体(クリーム色の粒)の下に隠れていて、雌しべが毛のように担根体のすき間から出ています。

発見から現在まで10年が経過しましたが、他の地域では確認されていません。牧野植物園では本館の入口左の石垣の上でほぼ毎年花を咲かせ、お客様の目を喜ばせています。



○ 偶然の出会い

文・写真：伴ノ内 珠喜

私がキイレツチトリモチを初めて目にしたのは、今から10年前の12月、ミョウガの栽培をしていた頃。ハウスの裏山をアケビ採りなどしながら散策しての帰り道、それは突然の出会いでした。林の中、山道の真ん中に茶色いキノコのようなものが生えています。初めて目にしたときは「なんだ? イチゴが腐ったようなこのキノコは?」とまるでキノコのような姿に驚いたことを覚えています。こんな目立つのに行く時は気づかなかったのが不思議です。

その翌日、高校時代の恩師の開くギャラリーにて「原色牧野植物大図鑑」で調べたところ、「キイレツチトリモチ」という名前の付いた昨日見たキノコのようなものに似た植物がありました。今まで地元では見たことがなかったので恩師に話したところ「池田十三生」さんという植物に詳しい方がこれから来るから聞いてみればとのこと。それが池田十三生さんとの出会いでした。

その後やって来た池田さんに「池田さん! 興津にこんなものが在るぜ」と図鑑を見せると「それなら森ケ内にある」とのこと。百聞は一見にしかず「それなら早速明日見に行こう!」との話になり興津で待ち合わせて裏山へ行きました。キノコのようなものが生えている場所まで案内しました。池田さんがそれを見ると「森ケ内にあるものとは違うね」とのこと!

池田さんが撮影しているうちにあたりを探してみると斜面や、木の根元などあちらこちらに生えていました。池田さんは帰った後、牧野植物園にメールで問い合わせたようです。その日の夜11時頃、池田さんからの電話! 「伴ノ内君! 大変なことになった! 今日撮影したあれよ! もし(キイレツチトリモチ)なら四国では初の大発見かもしれん! 明日牧野植物園から見に来るから時間あけちゃって!」とのこと! その時私はまだ大変な発見をしていたとは思っていませんでした。

翌日の午前中、稲垣典年さんをはじめ牧野植物園の方が池田さんと見に来て、私が見つけたキノコのような植物はキイレツチトリモチに間違いなく、四国では初めての確認とのことということがわかりました。その時初めて「とんでもない発見をした」と実感しました。翌2017年、四国初の自生地発見という論文が発表されました。興津には同じような環境があるので探したところ、最初に発見した場所以外でも見つかり、興津の広い範囲で生育していることがわかりました。

小室の浜の自生地は、ほかの生育場所を探していたとき、最初の発見場所周辺以外ではなかなか見つからず、偶然入ったクロマツを含むトベラやマサキ、ネズミモチ等の混合林の中で発見しました。この場所は3年間の調査・観察の結果、四万十町の天然記念物に指定されることになりました。アクセスも簡単なので今では地元の方や県内はもちろん、県外からの愛好家が訪れるようになり親しまれています。



写真 防風林内のキイレツチトリモチ (2017.10.30)
興津では10月中旬から11月中旬頃に開花する

サダソウはコショウ科の多年生草本で、牧野富太郎が、鹿児島県の佐田岬や高知県の戸島で採集された標本を基に1901年に記載した植物です。

須崎市戸島の生育地は、分布の北・東限で、そのほ

か県内には、興津の三崎山にも生育地が知られていますが、県内の自生地はいずれも海岸に近い林内や林縁で、同じような環境は広くあると思われそうですが、生育している地点と範囲は非常に限られています。

○ 興津地域におけるサダソウについて

文・写真：伴ノ内 珠喜

興津地域におけるサダソウの自生地は現在2カ所わかっています。両方とも海際にあるものの生育環境が異なっており、一方は林内の北東向きの崖にありほぼ終日日陰。もう一方は西向きの崖で木漏れ日のさす明るい場所です。それらの生育環境をみると、なぜほかの場所にはないのか？と疑問を感じます。これはあくまで私の仮説なのですが、ほかの場所に生育していない要因のうちのひとつに、ノウサギやノネズミなどの野生動物による捕食による影響があるのではないかと考えています。

北東向きの崖にある生育地は傾斜角度が80度以上、もう一方の西向きの崖は満潮時には下方が波に洗われるような環境です。ともに容易に野生動物が近づけないため捕食されず残っているのではないのでしょうか。特に冬場は草が減り食物に乏しく、ノウサギなどは植物から水分補給をするので、柔らかくみずみずしいサダソウは格好の食べものになると考えられます。実際に、アコウの根元のくぼみに生える個体にノウサギによる被食の跡があるのを見たことがあります。

このような理由から、限られた場所にしか生育していないのではないのでしょうか。今後継続的な調査が必要だと思っています。



写真 興津のサダソウ (2023.6.22)

■ ニホンジカの食害被害の拡大 筒上山のキングジョウマ

高知県の山地ではニホンジカの食害の被害がより一層深刻になってきています。西土佐黒尊では2000年以前、三嶺山系では2004年頃から顕著に食害の影響が確認され、数年前からは石鎚山系でもニホンジカの食害被害が確認されています。

筒上山の東面にある登山道沿いのキレンゲジョウマの群落は、開花時期に登山者の目を楽しませてくれる重要なスポットで、昨年有志による新しい啓発看板や道沿いのロープが整備されました。

今年の7月、この自生地で食害被害が確認されたという情報を得て、8月上旬に調査を実施しました。



写真 被食された個体 (2024.8.9)



写真 キレンゲジョウマ自生地 (2024.8.9)

この場所は急登が始まる場所で、急斜面の中腹にキレンゲジョウマが生えています。登山道周辺ではそれほど被害が目立たないのですが、斜面下部の登山道から離れたところでは葉や花などが食べられて茎だけになっていました。

ニホンジカの個体数を減らすとしても、捕獲による個体数管理はすぐに結果ができません。このままでは数年以内に激減し、登山道からの景色も変わってしまうと考えられます。緊急的には防鹿柵による保護が急務です。しかし、自生地は登山口から二時間かかり、資材運搬の問題があります。猶予のないなかどうしたらいいか対応を迫られている状況です。

■ 令和6(2024)年度下半期 研修会などのお知らせ

下半期の研修会を次のとおり開催します。参加ご希望の方は、資料の準備などがありますので、必ず事前にお申込みください。

分類学セミナーについては、開催が決定しましたら別途ご連絡いたします。

【申込先】

メール：floraofkochi@makino.or.jp

電話番号：088-821-8739（事務局直通）

088-882-2673（標本庫直通）

※土日祝日を除く9:00-17:00

FAX番号：088-882-8635（代表）

樹木研修会（屋外）

12月7日（土） 9:30～12:00

12月15日（日） 13:00～15:30

各回定員：10名（初心者優先）

内容：五台山の散策路で樹木を観察。30種類覚えることが目標です。

図鑑の使い方研修（屋内）

11月10日（日）

①10:00～12:00、②13:30～15:30

2025年2月16日（日）

①10:00～12:00、②13:30～15:30

各回定員：4名（初心者優先）

内容：標本庫内で新聞にはさまった状態の植物を、図鑑の検索表や比較標本を使って同定します。

■ 野生植物分布調査ホームページ開設

9月上旬に野生植物分布調査のHPが開設されました。探索が必要な植物を「クエスト」として挙げているほか、登録調査ボランティアは、配布したパスワードを入力すれば県内で確認されている種類の分布図などを閲覧することができます。また、各市町村の採集済みリスト、未採集リスト（和名50音順・科名50音順）をダウンロードできます。スマートフォンなどにダウンロードすれば調査時にも検索できますのでご利用ください。リストの更新は年に2回程度、パスワードは年度始めに変更します。

もし閲覧できないなど、不具合などありましたら事務局までご連絡ください。その際パソコンのOS

（WindowsかMac）、ブラウザ（SafariやGoogle Chromeなど）も併せてご連絡ください。

野生植物分布調査

<https://www.makinofok.jp>

HPはこちらから→



標本貼付体験（屋内）

場所：土佐清水ジオパークうみのわ

2025年1月28日（火）①10:00～ / ②13:30～

場所：牧野植物園標本整理室

2025年2月2日（日）①10:00～ / ②13:30～

各回定員：4名

時間：2時間程度

内容：自分で採集した標本を貼付してみましよう。標本が出来上がるまでの一連を体験して、植物を新聞に挟む時の注意すべき点を学びませんか？

※貼付はご自身の採集標本に限ります。参加ご希望の方は手順をご案内します。今秋の採集で間に合いますよ！

ナルトサワギク防除活動参加者募集

定員：30名

集合場所：芸西村琴ヶ浜 和食川河口臨時駐車場

11月18日（月）10:00～12:00

申込締切：11月11日（月）

持ち物など：長袖、長ズボン、帽子、軍手、雨具、飲み物、保険証（写しでも可）、長靴

※黒っぽい服や白黒ボーダーの服は避けてください

※小雨決行・荒天中止

※ウチワサボテン類の除去作業も行います

■ 高知県の植物に関する問い合わせ

毎週火曜日（休日の場合はその翌日）に植物研究課の職員が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態（仮押しでも可）にするか、新鮮なうちにお持ちください。

植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで下記番号で受付しています。

植物相談：088-882-2723

■ 編集後記

本号では、四万十町興津にて農業のかたわら興津地域の植物の調査、研究をしている伴ノ内珠喜さんに興津のキレツチトリモチとサダソウについて、ご紹介いただきました。9月上旬にHPが開設しました。市町村の採集・未採集リストを調査時の参考にしてください。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。